

# 生物教育における国際交流の活性化に向けて

アジア生物学教育協議会（AABE）隔年会議 参加経験者の視点から

中道貞子 生物教育研究所

## 参加した隔年会議

- ◇ 第16回（1996）チェンマイ（タイ）
- ◇ 第17回（1998）パサイ（フィリピン）
- ◇ 第19回（2002）ワーナンブール（オーストラリア）
- ◇ 第21回（2006）公州（韓国）
- ◇ 第22回（2008）大阪（日本）
- ◇ 第23回（2010）シンガポール
- ◇ 第24回（2012）ケソン（フィリピン）
- ◇ 第25回（2014）クアラランブール（マレーシア）
- ◇ 第26回（2016）ゴア（インド）
- ◇ 第27回（2018）バンコク（タイ）
- ◇ 第28回（2022）オンライン（フィリピン）



※当日配付資料は生物教育研究所ウェブサイトをご覧ください ↑

AJBE (The Asian Journal of Biology Education)  
<http://www.aabe.sakura.ne.jp/Journal/Papers.htm>



◆隔年会議 Abstracts 掲載号

- \*Vol.2 (2004) 第19回 ワーナンブール大会 (オーストラリア)
- \*Vol.3 (2007) 第20回 チェンマイ大会 (タイ)
- \*Vol.4 (2010) 第21回 公州大会 (韓国)
- \*Vol.4 (2010) 第22回 大阪大会 (日本)
- \*Vol.6 (2012) 第23回 シンガポール大会
- \*Vol.7 (2013) 第24回 ケソン大会 (フィリピン)
- \*Vol.8 (2015) 第25回 クアラルンプール大会 (マレーシア)
- \*Vol.9 (2016) 第26回 ゴア大会 (インド)
- \*Vol.11 (2019) 第27回 バンコク大会 (タイ)
- \*Vol.14 (2022) 第28回 オンライン (フィリピン)

◆AJBE (The Asian Journal of Biology Education) への投稿

- \*Vol.5(2011) Transitions in the Course of Study for Biology Education in Japan Focusing on Lower Secondary Schools, pp.26-32
- \*Vol.10(2018) Biology Education in Upper Secondary Schools at Present in Japan Teiko Nakamichi and Nobuyasu Katayama, pp.7-16
- \*Vol.12 (2020) Inquiry into the Onion, pp.11-16

「生物教育」に掲載されているAABE関連の記事

<http://sbsei.jp/publish/journal/>



生物教育 第37巻 第3・4号 (1997) : 第16回関連記事

生物教育 第39巻 第3・4号 (1998~99) : 第17回関連記事

生物教育 第42巻 第4号 (2001~2002) : 第18回関連記事

生物教育 第45巻 第2号 (2005) : 第20回関連記事

生物教育 第47巻 第4号 (2007) : 第21回関連記事

生物教育 第48巻 第1・2号 (2008) : 第22回プログラム及び予稿

生物教育 第50巻 第2号 (2009) : 第22回隔年会議報告

第23回~第26回までの報告 第52巻 (第1号) 第54巻 (第1号)

第55巻 (第3・4号) 第58巻 (第3号)

## AABEに参加することで得られる利点

アジアのいろいろな国の

(1) 生物教育事情を知ることができる

\* カントリーレポートや発表の内容から

\* 学校訪問 会議内の企画としての訪問・自分で交渉しての訪問

\* 資料の入手 業者展示や書店での教科書購入など

(2) 教育の現状や人々の生活を垣間見ることによって視野が広がる

\* 懇親会・ランチタイム・コーヒースタイル等での交流など

(3) 日本とは違った生態系をみることができる

\* エクスカーション \* ポストカンファレンスツアー

\* 自主的な研修

(4) アジア圏の多くの国は英語を母国語としないので、つたない英語でも気後れせずに話せる（英語圏での国際大会に参加する練習にもなる）